



作
林
府
唱
奴
警
察
規
則

大
歲

は

1608



414
A2793



伯備守公私賣淫ニ管スル千八百五十三年一月廿五日
警視局長指令

凡テ自意ニ出テ賣淫ニ利得ヲ得ルモノ名ケテ賣淫ト云フ
之ヲ警察上分テ公賣密賣ノ二段トス

一 公賣淫之事

現今賣淫ハ何等ノ性質ノ嚴法ヲ設ルモ決ニテ之絶滅
スル能ハガル事ト認メタリ

之ヲ絶滅セント欲シテ試ムルモ其益ナクニテ却テ害
ヲ加ル身

故ニ場ニト場合トニ從テ警察上幾クカノ許認ヲナサ
ルヲ得ズ

二 警察ノ目的ハ三様ノ點ニ在リ

一 健康ノ有様ニ妨ノ病アリ傳染ヲナシニメテ事

大正十一年四月
陸軍省
贈

二 徳義上ノ有様ノ風儀ヲ紊サ、ル事

三公ケノ安寧ノ責重、場示ラ以テ亮後ヲ隠匿セシメ
サル事

三公賣セシムルニ別ヨリ一ハ各娼妓ヲ自家ニ住
居セシメ嚴重ノ規則ヲ設ル事又一ハ別段ニ其家ヲ設
ケテ之ニ住居セシメ一切其戸主ニ責任アリ

四 此次ノ法ハ最警察ニ便利ニシテ自ラ行届ク可ク官
ヨリ此不正ノ業ヲ認許シテ保護スルハ徳義上不都合
ナルハ勿論ナレトモ伯備府ニ於テハ實驗上ヨリ証据立
ツルハ此法ヲ以テ最良ノ法トス

五 政府ニ於テハ此娼樓ノ設ケヲ保護スルト見ヘザルヲ
ノ具戸主ハ開業スルニ付テハ必ス警察官ニ允許ヲ求
メ開業セント欲ハ處ノ憲ヲ届ケ並ニ警察官ヨリ令ス

はろ

ル處ニ義務ハ必ス循奉ニ可キ旨ヲ陳述ス可キヲ布
令セリ

警察上必要トスル處ノ要件ヲ満タセル開業頭人ハ允
許ヲ得可シ娼樓ハ必ス繁華ナラザル街區ニ設ルヲ要
ス学校教院ノ近辺ニ置カザルヲ要ス又街衢ノ角ト地
ニ家作ヲ設ケ且隱ニ部屋ヲ設ルヲ禁ス此允許ハ元來
官ヨリ取リ戻スヲ得可キモノナリ凡テ規則ヲ犯ス
モノハ相方ノ約束ヲ以テ定メタル罰金ヲ科ス

六 娼樓主ニハ娼樓中ノ規則並娼妓ニ管スル規則ヲ記シ
印刷シタル書付ヲ渡シ置ク可シ
其規則書ハ左ノ趣主ヲ定ム

第一 近隣並通行人ニ妨害ヲナサザル様取締スル事
第二 娼妓ノ近所ニ徘徊スルヲ禁スル事

第三戸主ト娼妓 間並娼妓ト遊客トノ間ニ争論ノ防
ク事

第四戸主ヨリ娼妓ニ對シテ慥刻ノ果抑ラナシ憫然ノ丁
ナキ様娼妓ヲ保護スル事

七 娼樓ノ戸主娼妓ト為ラント欲スル處ノ婦女ヲ允許ヲ
求ムル為メニ警察局ニ連レ行ク片ハ警察官ヨリ其婦
女ニ對シテ全ク自身ノ望ミニヨリ賣淫スルヤ又他人ヨ
リ強迫セラレタルニハ非ルヤノ旨ヲ尋問ス可シ且何レ
ノ場合ニ拘ラズ此業ヲ去テ他ノ正業ニ就シテヲ教戒
スルヲアル可シ又賣淫ノ利害ヲ説キ且他ニ契約等ア
リテ不得已此業ニ入ルノ筋ヲキ旨ニ告諭ス可シ若シ
其婦女是非共此業ニ入レトヲ望ミ且丁年ナルカ如シ
クハ幼年ナル片ハ父母又ハ後見人ノ許諾アル旨ヲ証

スルニ於テハ其弊ヲ検査セシメ病ヒナキモノハ允許
ス可シ

幼年ノ婦女ハ其時ニ至ルマテ既ニ賣淫セシトアル旨
ヲ証ス可キ所ニアラザレバ允許スルヲナシ畢竟父母
後見人トシテ自ラ保管スル處少女ヲシテ不行以ニ誘
引スルノ理ナキヲ以テナリ外國丁年ノ婦女ハ通行鑑
札其他賣淫ニル者ナルヲ証ス可キ官ノ証據アル片
ハ之ニ依テ允許ス可シ

八 右允許ヲ得タル片ハ其婦女ハ以上ニ記シタル注ニ適
ヒタルヲ証シ得ルモノニ調書ニ調印シ戸主モ亦之
ニ調印ス然ル片ハ戸主ニ渡シ置ク規程ノ寫ヲ娼妓ニ
附與ス可シ
九 娼樓ニ住居スル娼妓ハ官ヨリハ借家人部屋ヲ借ル位

ト看做シ公ケ、其寧ニ害シ得ル所ノ賣淫ヲ行ヒ且後
テ警察上格別嚴重ノ監察ヲ受ルノ一廉トニ就テノ
他ノ借家人ト別アリトス

十此等ノ婦女ニハ正業ニ復ス可キノ路ヲ又ス與フルヲ
要ス故ニ此業ヲ弁シテ欲スルハ河レノ時ニテモ必
ズ此業ヲ去ルトヲ得可キ旨ヲ兼テ告知シ且設ヒ戸主
ニ對シ負債其他ノ契約ノ義務アルハ此業ヲ廢スルニ
付テハ一日モ之カタメニ拘束セラル、トナキ旨ヲモ
告知シ置ク可シ若シ此業ヲ廢セシト欲スル娼妓戸主
ニ對シ負債アルハ戸主ハ通常ノ方法ニ依ラザレハ
返済ヲ要求スルヲ得ズ但シ抵當トシテ娼妓ノ所有品
ヲ取り置クトヲ得可シ然レハ警察上ニ於テハ負債ノ
事ニハ拘ラズ負債者^{娼妓}ヲ其位所ニ差度シ戸主ハ相應

は分

ノ衣類ハ必ス残シ置クル上ケガ可キ事ナリ
モシ其娼妓外國ノ婦女ナルハ戸主ハ国境マテノ旅
費ヲ與フ可シ且其伯倫府内ニ生レタル者ナレハ其住
居ノ區ノ副警察使ツリセトナシドホリトスニ引渡ス可
シ

十一娼妓身躰ノ検査ハ一週間兩回其住所ニ於テ為ス可シ
其區ノ警察官附屬ノ醫師ノ之ヲ行フ者ハ「スベキ」口凶
陰部ヲ開キ検査ヲ用テ可シ検査ノ日時ハ醫師之ヲ定ム
可シ但シ月曜日ト木曜日カ大曜日ト全曜日カ又ハ水
曜日ト土曜日カニテ午前ニ行フ可シ且娼妓ノ住居
ニ待受ケテ検査ニ脱カレザル標時刻ニ違ハザルニ要
ス

十二醫師ハ検査ノ表ヲ其用紙ニ記シテ其掛リ「コム」ニヨシ

ノ局ニ出シ其片ニ保存ス可シ若シ娼妓ノ中傳染病ニ罹ルモノアルハ鑿師ノ言付ヲ添一別段ノ病院ニ送ル可シ若シ其他ノ病ニ罹ルモノアリテ妓樓ニ在リテハ養生ナシ難キアルハ戸主ノ費用ヲ以テ同上ノ病院ニ送ル可シ
十三 妓樓戸主ハ同居ノ娼妓ヨリ徴毒其他病氣養療ノ費用トシテ月税ヲ收受シ風儀取締掛リニテ收受スル罰金ト同ク警察本局ニ送ル可シ

密賣淫之事

スベテ官許ヲ得ズ妓樓ニ在ラズシテ賣淫スル者之ヲ密賣淫トス其警察ノ方法左ノ如シ

- 一 宿府内住居ノ婦女ニシテ是迄既ニ賣淫ノ罪ヲ蒙リ如シクハ淫蕩シテ街路ニ徘徊セシニヨリ禁錮ニラレ如シクハ徴毒アルニヨリ病院ニ送ラレタルモノハ一ノ帳簿ニ登記ス
- 二 又外ニ第一ノ帳簿ヨリテ未タ公然密賣ヲ行ヒタルニヨリ警察ノ手ニカ、ニガルモ該區警察副使ノ疑案ヲ受ケタル者、姓名ヲ登記ス此ニ丹帳簿ハ絶ヘズ検査ヲナス可シ
- 三 第一簿ニ記入シタル婦女ハ悉皆風儀取締掛局ニ呼出シ且毎週一回鑿局ニ呼出ニテ徴毒検査ヲ為ス可シ

四 簿二簿ニ記スル婦女ノ數回呼出ニテ告諭スルコトナル
可シ又再ヒ密索ヲ行ヒ徴査ニカ、ルモノアルハ一病院
ニ送り前條ト同ク徴査ヲ受ク可シ

五 徴査ヲ受ケルモノハ各其人相言檢査ノ日附檢査
ノ有様之ニ管スル規則並其者ノ姓名ヲ記シタル帳簿
ノ番号ヲ記シタル手帳ヲ渡スヘシ○其定日ニ檢査ヲ
受ク可キモノハ局ノ担当ニ至リ名前ヲ出シ掛リ官吏
ヨリ其手帳ヲ受取リ其手帳ヲ携ヘテ檢査ノ室ニ至リ
檢査ヲ受ケテ容体ヲ手帳ニ記入シ夫ヨリ前キハ掛リ
官吏ニ其手帳ヲ返附ス其官吏ハ容体ノ記入ヲ見テ全
愈ト記シタル者ハ退院セシメ傳染病ニ罹ルモノハ其
手帳ト共ニ其旨ヲ局ニ届ケ其病者ハ病院ニ送り且全
愈ノ後更ニ檢査ノタメ出局ス可キ旨ヲ申達ス可シ○

外ニ一ノ帳簿ヲ作りテ檢査ノ日附ノ順序ニヨリ姓名
ヲ登記ス

六 檢査ヲ受ク可キ最初ノ日ニ出デザルモノハ第四課警
察官ヨリ其住居ノ區ノ警察局ニ請求シテ之ヲ拘引シ
テ疑問ニ其答弁ヲ調書ニ記シ答弁ノ趣意取上ノカタ
キモノハ告諭ニテ解放ス○若シ再犯スルモノアルハ
ハ警察局ニ拘引シテ疑問ニ其答弁ノ趣意取上ケガタ
キモノハハ八月以上一月以下懲役場ニ禁錮ス

七 モニ密カニ住居ヲ轉シ徴査ヲ免レシトシタルモノ
ノハ探索ヲナシ現、在居セル場所ヲ見出シタルハ
懲役場ニ禁錮ス

八 密索ヲナシタルニ付テ徴査ヲ受ク可キ婦人ノ
檢査ハ日曜日並祭日ヲ除ク外毎日午前十時ヨリ十

二時マテノ内ニ行フ可シ各區ノ醫師ハ上等醫官ノ監督ヲ受ケ更番ヲ以テ之ヲ行ヒ検査ニハ「スヤキ」ロトヲ用フ可シ密賣女ハ其名前ヲ帳簿ニ登記シ並病院治療ノ價ヲ拂フナレ七區費スヲ以テ之ニ充ツ

九風儀取締懸リ課長ハ一時又向後検査ヲナスニ及バザルヒ旨ヲ定ムルヲア「若シ密賣女ノ病氣ニテ検査ヲ受ルヲ得ズト申立ルモノハ其課長ヨリ其區警察局誌ノ醫師ニ指圖シテ其申立ル所ノ實否ヲ検査セシム其検査ハ之ヲ申立ルモノ平人ノ醫師ノ容体書ヲ以テ証据立ラ届ク出ルト雖凡右手續ノ検査ヲ為ス「ア

十伯倫府ハ五大警察區「カベ」テ「リ」ヌ「リ」ニ別テ又之ヲ細別シテ数多ノ小警察區トセシ副警察使之カ長ク其

はら

五大警察區ヲ別ニ十區ニ分ク之ヲ健康警察區トナシ每區醫師一員ヲ置ノ故ニ每大警察區ニ醫師二員ノ割ナリ其職掌左ノ如シ

第一 區内健康ノ有無ヲ察スル事

第二 不慮ノ怪我等ヲ凡ハ治療ヲ施ス可キ事

第三 選卒ノ病氣ヲ診察ス可キ事

第四 區内娼妓(公賣淫)ノ病ヲ診察スル事

外ニ上等醫官二員アリ之ヲ惣轄ス但シ其中一員ハ右第一第二第三ノ事務ヲ管シ他ノ一人ハ風儀取締掛ニテ賣淫ノ事務ヲ管シ其課長ト醫師ヲ兼務ス

十一右警察全クセンカク「メ」一ノ般産場ヲ設立シ恒ノ「産」業ヲク「ム」ヲ得ヌ「過」治ノ「タ」メ賣淫ニ本心「ニ」業「ヲ」歸セ「ト」望ム者ニ産業ヲ授与シ且教諭訓導ス

貸座敷開業頭式

今般何号屋敷ニ於テ貸座敷敷渡世相聞キ度ソ御允許奉願候
御允許ノ上ハ左ノ通り相違ナク循奉可致候

一 此官許ハ何時ニテモ御取戻シ又ハ御改正相成ヘキニ
ノニシテ其節其御趣意ニ承知セント求ムルノ權ナキ
ト心得候事

二 貸座敷ニハ其都度允許ヲ受ケザレハ娼妓ヲ住居為致
候儀ハ不相成ト心得候事若シ之ヲ犯セシハ其都
度百タリレ此ノ罰金ニ處セラレ可キ事又屋敷内官許
ヲ歷テ住居スル娼妓ノ外一切住居為致ナル事若シ之
ニ違フハ百タリレ此ノ罰金ニ處セラレ可キ事

三 諸不仕雇サハ四十年以上ノ者ハ限ル事違フハ五十
タリレ此ノ罰金ニ處セラレ可キ事

四其他婦人並二十年以下少年ノ者ハ何等ノ仔細有之ト
 モ一切入ルヲ禁スル事若シ違フ片ハ五十「タ」ル
 上ニ百「タ」ル以下ノ罰金ニ處セラレ可キ事
 五樓中ニ於テ騒カニ事無之標注意ス可キ事「モ」拙者
 ヨリ騷擾ヲ起シ又ハ他人ヨリ乱暴ヲ始メテ之ヲ静メ
 サルハ十「タ」ル以上百「タ」ル以下ノ罰金ニ處
 セラレ外ニ他人ノ損失ヲ補償スヘキ事
 六樓中酒類並歌舞音樂等ヲ禁スル事犯ス片ハ五「タ」ル
 以上五十「タ」ル以下ノ罰金ニ處セラレ可シ入口
 ハ晝夜共閉鎖ス掛ケ鎖ニテ可キ事若シ明ケ放シアル
 片ハ五「タ」ル以上十「タ」ル以下ノ罰金ニ處セラ
 レ可シ
 七窓ハ必ズ閉鎖スル事犯ス片ハ五「タ」ル以上十「タ」ル

17 10

レ以下ノ罰金ニ處セラレ可キ事
 ハ家ノ内外トモ家作模様替ノキ、必ズ前以テ官許ヲ受
 ク可キ事犯ス片ハ五「タ」ル以上五十「タ」ル以下
 ノ罰金ニ處セラレ且模様替ノ場所ヲ元ノ如クナス可
 キ事
 九屋敷内ニ住居スル婦女ハ門外ニ出テズ並ニ公園等ニ
 出テサル標注意ス可キ事犯ス片ハ一人ニ付キ三「タ」ル
 レ以上十「タ」ル以下ノ罰金ニ處セラレ可シ
 十モ之娼妓ノ内旅行又ハ府外等ニ出可キ事ハ前以
 テ其筋ハ允許ヲ求メ決ニテ御指令ニ従フ可キ事モシ
 犯ス片ハ五「タ」ル以上十「タ」ル以下ノ罰金ニ處
 セラレ可キ事
 十一屋敷内ニ住居スル娼妓ノ食料座敷料並衣服料等ニ付

キ娼妓ト取結ハ候條約書ハ
キハ百十三年ノ調ニ依
テ食料座敷料並ニ衣服料
上ノカニ一日ニアラセ
上ノカニ一日ニアラセ
上ノカニ一日ニアラセ
ト事必ス前以テ其筋ハ届ケ其指令ヲ待テ之ヲ行フ事
トス且後日其筋ノ決定ニヨリ改正スルヲアル片ハ必
ス之ニ從フ可キ事之ニ違フ片ハ五タリレ此以上二十
タリレ此以下ノ罰金ニ處セラル可キ事

十二賣女ノ直段ハ前以テ官許ヲ受テ可キ事犯ス毎トニ
五タリレ此以上十タリレ此以下ノ罰金ニ處セラル
可キ事

十三屋敷内ニ住居スル婦女ハ拙子ニ對シ又ハ拙子ノ保護
ヲ以テ他人ニ對シ二十タリレ此以上ノ借貸ヲナサバ
此桶注意スル事違フ片ハ五タリレ此以上五十タリレ此

以下ノ罰金ニ處セラル可シ

十四娼妓ヲ打擲シ又ハ禁錮シ又ハ身体ヲ慘刻ニ取扱フ
決シテ無之事違フ片ハ五タリレ此以上二十タリレ此
以下ノ罰金ニ處セラル可シ

十五遊客ハ夜一時迄ニ限リ留置キ一時後ハ決シテ入レザ
ル事犯ス片ハ五タリレ此以上二十タリレ此以下ノ罰
金ニ處セラレ可シ

十六娼妓ハ總テ官ヨリ渡サル、規則ヲ循奉致ス可ク且身
体ハ清潔ニ致ス桶注意ス可キ事若シ病ニ罹ル者有之
節ハ拙者ヨリ直チニ區ノ醫師ニ告ケ其筋ヘモ届出ツ
可キ事若シ徵毒又ハ疥癬等ヲ患ルモノアル片ハ殊更
注意ス可キ事傳染病質アルモノト看認メタルハ
終ニ此片ハ醫師並其筋ヘ報告スルノミナラズ其醫

師、診断ヲ受ケ又ハ病院ニ送ルマラ他ノ娼妓ト同居
セシメズ且遊客ヲ受ケシメザル事之、違フ片ハ十
トシ以上百トシ以下ノ罰金ニ處セラレ他人
傳染スルニ於テハ拙子其責ニ任ス可キ事

十七娼妓懐妊シタルト慥ナルヤ又終ニキ中ハ直チニ其筋
へ届ケ出ス可キ事之、違フ片ハ百トシ以上二百
トシ以下ノ罰金ニ處セラレ可シ

十六晝夜共鑿師又警察官、巡察アル片ハ決シテ之ヲ拒マ
ザルノミナラズカノ及フヲケ之ニ助カシ且鑿師ヨリ
求ムル慶ノ器械藥物ヲモ亦給與ス可キ事若シ故意
ルト懈怠ニヨルトニ拘ラズ之ニ違フ片ハ五トシ以上
二十トシ以下ノ罰金ニ處セラレ可シ

十九各娼妓ヨリ毎月地稅ホニトシビユ一ニヨシ
トシテ金

ヲ前拂ヒニ受取リ其金額ヲ各月六日マデニ警察局ノ
金庫ニ納ム可シ

モシ娼妓ノ内之ヲ拂ハザルモノハ片ハ拙者立替ハ
置キ其娼妓拙者ニ對シテ負債アリトス可シ

二十此月稅ヲ拂フニ付キ娼妓ノ傳染病ニ罹ル片ハ費用ヲ
拂ハズシテ病院ニ治療セシ且入院中ハ月稅ヲ拂ハザ
ルトス

二十一各娼妓此他ノ病ニ又ハ分娩等ノ片ハ拙子ノ費用ヲ以
テ治療ス可シ

二十二又開業允許セラレハ於テハ警察等ノ諸費用トシテ
警察局ニ金ヲ差出ス可シ但シ返附ニ及ハザルモノト
スルモ納金後六月内ニ拙者ノ犯罪ナクシテ右允許ヲ
取消サル、片ハ返附セラレ可シ

三右各條ニ定ムル罰金拂方抵當トシテ此願書ヲ差出ス
ヨリ三日内ニ、金ヲ警察局ニ納ム可シ此金ヲ
ハ貸座敷渡世ノ允許ヲ拙者ノ罪ナクシテ取消ナル、
カ若シクハ拙者ノ情願、ヨリ廢業致ス片ニハ返付セ
ラル可シ但シ拙者ノ情願ニヨリ廢業セント欲スル片
ハ三週前ニ届出ツ可キ事若シ此届ヲナサバハ片ハ二
十ヲ一レルル罰金ニ處セラル可シ

三右各條ニ記スル罰金ヲ受ルヲ以テ他ノ重輕罪ニ付律
ニ定ムル處ノ刑ヲ免ルヲ得ズ且密賣淫禁止ノ法誘
拐詐欺等ノ諸法ハ備ケテ承知致セリ是等ノ犯罪ニヨリ
正當ノ罰金ヲ受クル場合ニハ營業允許ヲ取戻サル、
片金ク拙者ノ犯罪ニヨリ差止メラル、ト心得一キ
事モシ拙者ノ犯罪ニヨリ營業允許ヲ取戻サル、片ハ

罰金抵當トシテ納メタル金高ノ返附ヲ受ルノ權ヲ失
シ其金高ハ警察費ニ充ツ可キ事

三右各條ニ記スル所ノ事ハ無相違遵奉シ此事ニ付テ訴
訟ヲ起ス事ナカル可シ故ニ風儀取締掛リノ處分ニ服
シガタキ場合ニ於テハ警察局長控訴スルノ外控訴ノ
道ナク且該局長ノ處分ハ必ス從フ可キ事モシ之ニ違
ヒ裁判所ニ訴フハ片ハ營業允許ヲ取戻サル可キ事

三右各條ニ記スル諸件ヲ犯セシ片ハ風儀取締掛リ
ハ預シメ差出置ク所ノ金高ノ内ヲ以テ別段裁判ノ方
式ナク罰金ヲ拂ハシムルノ權アリ故ニ罰金ヲ拂ヒ抵
當金ノ減スルニ從ヒ引續キ其不足ヲ補フ可シ若其不
足ニ滿タナバハ片ハ免許ヲ失ヒ抵當金ノ残高ヲ失フ
可キ事

石倫府月

某

印

貸生敷戸主規則

- 一 貸生敷戸主ヨリ風儀取締掛リニ對シ定約セシテ茶ノ外
家内ニ寄留シ如シクハ雇人トナル者ハ該區警察所ニ通
常ノ届ヲナス可キ事
- 二 戸主ハ平生楼下入口ノ側ラニ住居シ人ノ出入ヲ監察ス
可シ且喧嘩暴動等アル片ハ直チニ之ニ立入り取鎮ム可
キ事
- 三 戸主ハ己レノ言フ所ニ從ハザルモノヲ戶外ニ逐出スノ
権アリ
- 又家ノ内外共ニ安寧ヲ保全スルタメニ警察掛リヨリ保
護助カニ可シ
- 四 貸生敷内ニ於テハ歌舞音曲賭博ハ都テ用フ可カラズ
- 五 戸主ハ賣女ノ價ノ表ヲ豫メ風儀取締掛ニ差出し置キ且

其表ハ入口ノ間并部屋内ノ見ヤスキ場所ニ張り置ク可
シ
娼妓ト戸主ト結約セシ条約書ノ寫一通ヲ各娼妓ニ渡シ
置ク可シ但シ其条約書ハ調印前風儀取締掛ニ差出シ其
検査ヲ受ク可キ事
六娼妓ニ管スル規則ハ各娼妓ニ一通ツ、渡シ置ク可シ且
戸主ハ娼妓ノ此規則ヲ逐一履ニ行フヲ注意スヘシ
七戸主ハ樓中ノ安静ヲ保チ娼妓ノ健康清潔ヲ注意ス可シ
娼妓ハ以上記スル所ノ事ニ付テハ必ス戸主ニ従フ可キ
事
モシ娼妓ノ戸主ニ従ハサルハ戸主ハ其區警察使又ハ
風儀取締掛リニ訴一出ツ可キ事決シテ娼妓ヲ打擲シ又
ハ慘毒ノ取扱ニ及フ可カラザル事

八戸主ハ娼妓ノ傳染病アルトキハ直チニ検査掛リノ医師
又ハ風儀取締掛一屆ケ出テ医師ノ診断マテ他人ト別居
セシム可キ事若シ其届ヲナサズ別居セシメザルハ故
意ヲ以テ病氣ヲ傳染セシメサルニ付キ法律ニ定ムル刑
ヲ受ク可キ事トス
九娼妓ノ内胎胎スルヤ又ハ其疑アルハ直チニ検査掛医
師又ハ風儀取締掛リ一屆ケ出ツ可キ事若シ之ヲナサル
ハ内胎ヲ隠匿スルノ罪ヲ受ク可シ
十戸主ニハ煮テ徵毒疥癬懐胎ノ徵候ヲ畧記シタル心得書
ヲ渡シ置ク可シ胎胎ハ月事ノ滞ル事ノミヲ以テ慥ニ妊
身ナリトス可シ且戸主ハ其平生ニ異ナラサルヤヲ聞知
シ若不用ナルハ直チニ検査掛リノ医師ニ報告ス可シ
十一各娼妓ハ毎週ニ四定日時ニ医師ノ検査ヲ受ク可シ又其

他掛りの者ノ命ニヨリ臨時ノ検査ヲ行フ可シ
十二検査ヲ行ヒ費用ヲ拂ハス娼妓養生タメニ戸主ハ左ノ用
意ヲ為ス可キ事

第一 雛形ニヨリ設クル検査所一ヶ所

第二 「スベキユロム」ニ三個

第三 「コロユル」ド「シャウ」数所

其他身体ヲ清ムル諸器械ヲ各娼妓ニ渡シ置ラ可シ

十三娼妓病氣ニ付キ不得已他出スルハ猥リナル所行ナキ標

戸主注意ス可シ

娼妓他出セザルヲ得ザル場合ニハ必ス信用アル人ヲ付

添へ着衣ノ体裁ニ注意セシメ街路ニ空リ止マラズ且無

用ノ場合ニ行カザル様注意セシム可シ

十四娼妓ノ賣淫ヲ止メント欲スルハ戸主之ヲ拒ミ又ハ戸

主ヨリ其娼妓ニ對シ前渡ニセシ金高アルヲ以テ之ヲ引
止ム可カラス

十五娼妓モシ其家ヲ去リ他ニ移テ同業ヲナサント欲ルハ

其娼妓ト其戸主トノ契約ニヨル可シ又ハ更ニ相方示談

ノ上タル可シ

十六戸主ハ常ニ娼妓ノ正業ニ復セシメ密賣ヲ制禁シ徵毒蔓

延ノ源ヲ塞クコトニ付キ全カラ盡シテ其掛リヲ助ク可キ

事トス

何倫府

風儀取締掛

娼妓規則

一 凡儀取締掛リノ允許ヲ歴テ營業スル娼妓正業ニ遷ント欲スルハ自由ニ其娼家ヲ去ルヲ得ヘキモノニシテ其家又ハ他ニ負債アルヲ以テ引止メラルトナカル可シ故ニ此場合ニ於テハ其娼妓ハ風儀取締掛又ハ其區警察所ニ訴ヘテ保護ヲ要ムルヲ得可シ

二 娼妓ノ住居スル家ヲ去テ他ノ娼家ニ移ラント欲スルハ其戸主ト示談ノ上又條約満期ノ後ニアラハレバ其娼家ヲ去ルヲ得ズ但シ戸主ノ恠刻ニ取扱ヒ又ハ其他至當ノ原因アルニ於テハ格別ニシテ此場合ニ於テ凡儀取締掛リヨリ之ヲ去ラニムルヲ申渡ス可シ

三 若シ正業ニ移ルヲ名トシテ掛リノ助ヲ求メ娼家ヲ去リ後復賣淫セルヲ發見セシハ懲役場ニ於テ三月間禁

ハ
17

大
藏
省

錮刑ヲ受クヘシ其禁錮ノ期限ノ後ハ眞ニ正業ヲ執ント
決議シ又ハ正業ノ方便ヲ得タルヲ示シ又ハ官如シク
ハ親屬ニ引渡スラニ懲役場ニ留置ス可シ

四戸主ノ娼妓ニ對シ苛刻ノ取扱ヒラナシ又ハ打擲禁錮ス
ルヲ嚴禁ス故ニ時ニ官吏巡察シテ娼妓ノ訴ヲ可キコトア
ルヤ否ヲ尋ヌルヲ可シ警察使并檢査掛リ医官巡回
シテ其訴ヲ聞取リ夙儀取締掛リニ報告ス可シ

五娼妓ハ大金ノ負債ヲナサズル様注意ス可キ事若シ夥多
ノ負債ヲナス片ハ自ラ後日正業ニ轉スルノ妨トナル可
キ事ナリ

六戸主ハ同居ノ娼妓ヲ監察スルニ付キ嚴重ノ法アルニ付
キ娼妓ハ必ス戸主ニ從フ可シ娼妓ハ戶外街路ニ出テ又
ハ路上ヲ見下ス可キ憲ヲ聞キ又ハ言語或ハ記号ヲ以

テ外人ヲ喚入ルヲ禁ス若シ之ヲ犯スモノハ初犯ハ三日ノ
禁錮ニ處シ再犯ハ八日ノ禁錮ニ處シ且其間ハシト水ノ
外食物ヲ与ヘス

七娼妓ハ歌舞劇場公園等ニ遊フヲ禁スモシ是等ノ場所
ニ在ル片ハ捕縛シテ三日ノ禁錮ニ處ス可シ

八娼妓ハ同居ノ戸主又ハ戸主ノ申付タル人ノ付添ヘナキ
片ハ外出ス可カラズ衣類ノ体裁ニ注意シ并醜体ナキ標
心得可キ事犯スモノハ捕縛シテ禁錮ス可シ

九娼妓遊客ノ物品ヲ奪ヒ又ハ竊盜又ハ盜贓ヲ隱匿スル等
ノ所業アル者ハ格別嚴重ノ刑ニ處ス可シ

十娼妓ハ自己及他人ノ健康ノタメ最清潔ヲ保ツ可キ事月
經中ハ遊客ヲ受ルヲ禁シ何病ニ拘ラズ病ヲ發シタル片
ハ直チニ戸主并掛リノ医師ニ告ク可シ之ヲ犯ス娼妓ハ

公ノノ風儀ニ付キ危ム可キ人トシテ捕縛ス可キ
且法律ニ定ムル刑ヲ受ケタルノ後外ニ監察ス可キ者ト
引渡スルヲ得ルマテ懲役場ニ留置シ可キ事

伯倫府

風儀取締掛

罰則

警察規則ニ乖テ賣淫スル者ハ八週間以下ノ禁錮ニ處ス可

シ刑法第百四十六條

裁判所ニ於テハ裁判言渡ノ時刑ヲ受ケタルノ後猶懲役場

ニ留置シ可キヲ言渡スル可シ

若シ其婦女外國人タルハ刑ヲ受ケタル後國外ニ追放ス

ルヲアル可シ

懲役場ニ留置シ期限ハ警察官ニテ定ム可シ但シ一年ニ超

ス可カラス

何人ヲ問ハス平生又ハ利得ヲ得テ男女共一人又ハ数人ヲ

誘引シテ淫蕩セシムルモノハ媒妁ノ罪ヲ以テ六ヶ月以上

禁錮元公権剥奪ニ處シ且政府ノ監察ニ附ス可キ事

刑法第百四十七條

凡テ賣淫ヲ容易ナラシムル者ハ懲治監ニ禁錮ス可シ但シ
左ノ場合ニ於テハ五年ヲ踰ユ可カラズ
一 賣淫ヲ容易ナラシムルタメニ奸詐ノ所行アル片
二 犯人若シ誘唆セラレタル者ノ尊屬親タル片又ハ其
後見人没業師タル片又ハ僧侶タル片刑法第百
四十八條
公クニ猥褻ノ所行ヲ犯シタル者ハ三ヶ月以上三年以下
ノ禁錮ニ處シ且一時公權ヲ行フヲ禁ス可シ刑法第百
五十一條

は
2
第

大
歳
首

